

新山協ニュース

▲ 発行者 平田 大 六 ▲ 発行所 新潟県山岳協会
〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男 方 TEL 0258-32-0428

1994年第2回中国青海省 国際高校生登山交流会報告

④

隊長 藤井 信

8月7日(日)

校生隊が登頂した山である。

6時45分日の出。朝食後テント撤収。1週間の登山活動も終わり、西寧市に移動する。名残りつきない野牛山(イエニュシヤン)または見返す青海湖(チンハイフー)も終わり、西寧市に移動する。当時の記憶を思い出しながら過ぎ行く青海南山を後にする。途中、中国の体育関係の施設、多巴高地運動トレーニングセンターを見学する。

青海湖を後に一路、青蔵公路を車は西寧市に向けて走る。館に到着。今日が西寧市最後の夜となるので、青海省体育委員会委員会の建物の中で、199

が続く。昨年第1回新潟県高

4 中国青海国際高校生登山交流会が行われた。交流会の式次第の詳細については省略しますが、概略は下記のようにです。

今回の山行に同行した、青海省体育運動学校の生徒の、開始の辞で始まり、司会も務める。

1、青海省体育運動学校校長 歓迎の挨拶

2、新潟県高校訪中隊を代表して、浜田亮一副隊長の挨拶

3、青海省登山協会秘書長の呉延義氏の挨拶

4、新潟県山岳協会会長室賀輝男氏に、青海省体育運動委員会主任より、青海省登山山岳協会の名誉会員認定の榮譽証書が手渡された。(世界で第1号の名誉会員となりました)

5、体育運動学校生徒代表挨拶(山行同行者)

6、新潟県高校生代表の挨拶 郷 巨(柏工高校)

7、野牛山(4898・3m)の登頂者に登頂証明書を一人ずつ交付される。

8、記念品の交換

9、青海省体育運動学校の生徒によるアトラクション。最後は踊りの中に、新潟県高校隊も参加する。

会場を移して、新潟県高校訪中隊の答礼会を行う。

開会 司会 藤井 信

1、新潟県山岳協会会長室賀輝男氏の挨拶(乾杯)

2、青海省体育運動委員会主任の挨拶(乾杯)

3、青海省体育運動学校副校長の挨拶

4、新潟県高校訪中隊を代表して、半谷高紀副隊長の挨拶

5、新潟県高校訪中登山隊より、青海省体育運動委員会(人民政府代表)へ記念品贈呈する。

これにて、セレモニーは終わり宴会に入る。会は歌や踊りが次々披露され、テーブル毎に、何かにつけて、乾杯、乾杯と、会場のムードは盛り上がる。

8月8日(月)

さようなら、青海省西寧市。西寧駅10時23分発で西安への列車の旅である。9時青海賓館ロビーに集合。青海省登山協会の車で、西寧市駅に向かう。列車乗車の手続き済ませ

謹 賀 新 年

今年もよろしくお願ひ申し上げます

平成7年元旦

新潟県山岳協会

会 長	室 賀 輝 男
副会長	藤 井 信
理事長	平 田 大 六
ほ か 役 員	一 同

て列車に乗る。一週間、野牛山登山で一緒になって苦楽をともにした、体育運動学校の生徒達、青海登山協会の方々、見送りの人たちとの別れは名残り惜しい。第一回隊は、別れ惜しさに日中高校生は、涙を流して泣いたシーンもあった。昨年よりクールである。長い長い16両編成の列車は、10時23分定刻に発車する。さようなら、さようなら、再見、再見。

西寧駅から西安駅までの所要時間は、22時間約1日1泊の列車の旅である。列車は軟臥車で三段のコンパートメントである。

列車は西寧市の市街地から農村地帯を走り、湟水河(黄河の支流)沿いの山峡を走り、いよいよ黄土地帯の旅が始まる。湟水河が黄河に合流するのは、達川近くである。2月の訪中の際、黄河の清冽な流れを見て驚いた。清く澄んだ日本の谷川の流れと変わりが無い。今は、黄河と二ライメイジ通りの濁流が流れている。冬季は、黄土が凍結して土壌が河に流れ込まないからだと言う。黄土は未固結の砂のよ

うに春には日本にも風で運ばれてくる黄砂である。食事は、食堂車で食べる。席を空にするわけにはゆかないので、高校生と私たちと二回に分けた。車窓の変わりゆく風景にシャッター・チャンスをねらうもの、記録の整理、中国語の勉強、読書、寝るもの、それぞれ思い思いの時間を過ごしての列車の旅である。列車のトイレ(廁所・ツォー

スオ)では、日本の表示は、使用中と空きであるが、中国は、有人(ヨウレン)と閑人である。

列車は甘粛省の蘭州に到着する。蘭州は、甘粛省の省都で人口260万人。黄河の上流に位置し、青海省から流れてきた黄河は、甘粛省に入っ

て急に北上し、東西の交通を切斷する。シルクロードを通じて西域に行くには黄河を渡って河西回廊に入らなければならぬので、古くから東西交通の要所として、シルクロードとともに発展して、その雰囲気を残すとともに、歴史と数多くの史跡のある都市である。

列車は黄土高原を、様々な風景を変えながら、西安へと走る。西安と西寧間の空の旅

から俯瞰する黄土高原は、知識での黄土高原と、実際に目で見る黄土高原では、大きな違いを認識する。ただただ、あの広大さと自然界の成り立ちの不思議さに驚く。黄土高原は堆積物からなり、土壌は肥沃で農作物の育ちがよいと云われる。あの環境中で、多くの農民が生活していることに驚異さえ感じる。

8月9日(火) 7時55分西安駅到着。中国でも最も歴史のある都市のひとつで、唐の時代には、長安と呼ばれるシルクロードの出発点の国際都市であった。一

先ず西安の唐城賓館に到着してさっぱりとして、11時観光へ出発する。

【兵馬俑坑博物館】 初めて中国を統一して強大な封建帝国を築いた、秦始皇帝。死後の秦始皇帝を永遠に守るために作られた兵隊や馬の像で、人も馬も驚異的なまでの写実さで、千人千様の形像で、この軍団は世界8大奇跡の一つである。

【華清池】 唐の玄宗皇帝がここに華清宮を建て、楊貴

妃と愛の日々を送ったロマンスの場所。

【半坡遺蹟博物館】 6000年前の黄河水系中流の西安人の村落跡で、新石器時代の母系氏族社会の遺蹟博物館。

8月10日(水)

【陝西省歴史博物館】 博物館は西安市内の明の城壁の内側にあり、周、秦、漢、唐の時代を中心に陝西地方の古代歴史を伝える博物館で、よくも集めたものと感心する。

【大雁塔】 玄奘三蔵がインドより経典を持ち帰って、仏教経典600部余りを翻訳しそれを納めるために建立されたもので、現在7層の塔は慈恩寺境内にある。

【碑林】 陝西省各地に散在していた、大型の彫刻や石碑の散乱を防ぐため現在のところ集められた。さまざま大きな石碑が、所狭しと建

ち並び、まさに林のごとく、名の通り碑の林である。

【城壁】 中国に現存する唯一の完全な大型古代城壁である。明代の城壁で、周囲11.9km、長方形で、高さ12m、頂部の幅15m、底部の幅18m、山のように厚くどっしりして

いて、頂部を馬や車が走れる。今はマラソン大会があると云う。

【中国人民解放軍・空軍西安病院】 古代からの宮廷の処方箋を中心とした漢方医学病院。東洋医学の説明とデモンストレーションがあつて、薬を病状の申告に合わせて売

る。昨年、上海でも経験する。薬を買わないでいたら、顔を覗き込み、登山隊の唇の荒れをみつけて、薬をもってきた。

何を使っているか、リップ・クリームを見せたら、これは駄目だと云う。とうとう買わ

せられた。(つづく)

マ

ナ

一

秀峰山岳会(高体連)

吉 田 光 二

1、未組織登山者、とりわけ中高年登山者が増加し、これまで「遭対」以前の破壊等の問題が指摘される。

「マナー」の部分が欠落し、それに伴う危険性や、環境

破壊等の問題が指摘される。

北信越ブロック審判員研修会 3月4日～5日 富山県大山町

- 2、基本的にはこうした登山者の組織化、技術向上を図らなければならないこと言うまでもないことであるが（中高年登山委員会を取り組んでいるが）、以下のようなく、ごく一般的でしかも大切なマナーの周知徹底と、こうした登山者を対象とした現地での受け入れ対策（対応）を急がなければならない。
- 3、マナーの実態
 - (1)「こんにちは」と言うことは知っていても「登り優先」を知らない。つながってくる下山者のために登れなくて帰ってきたということをよく聞く。
 - (2)自分の後ろに行列になっていても、「お先にどうぞ」とゆずらない。
 - (3)よそのパーティの中でもどこでも割り込んでくる。
 - (4)登山道を塞いでの休憩。雪渓の上で立ち止まって花木の説明をする迷リーダーと集団。
 - (5)落石をおこしても恐さを知らないものだから「我関せず」。
 - (6)山に宴会にくるがごとく、調理を前提にきているから

- ゴミが多くなる。さらには下山の恐さも考えなしの飲酒。
- (7)避難小屋が「あてにされた山小屋」となり、宴会場化している。さらに、常連組が独占化している傾向あり。
- (8)早立ち早着きの原則も、悪天時でもいいさおこまいなしの登山行動。冬に至っては夏の延長の気分。
- (9)グループにはなっていないもリーダーの指導性もなく、どこでも「くっつき」簡単に「はなれる」。
- (10)その他
 - ・ 使い方の知らないピッケル・アイゼン。
 - ・ 靴の手入れはまったく知らない。これからレベルは推して知るべし。
 - ・ 「下着はタオル地で作ると良い」などの間違った「登山知識」。
 - ・ 猫も杓子も鈴を付けて、まるで修験者の行進。かと思えば動くラジカセ。やかましくしてしょうがない。
 - ・ 某雑誌にストックが良いと書かれると、たちまちストック登山の行列。
 - ・ 山野草等は保護どころか、「盗掘意識」もなしに持ち

- ・ 帰り。
- ・ 某山岳会（未登録）は弥彦山頂で元旦午前0時の打ち上げ花火（尺玉）を計画。地元マスコミで賞賛。（※94年元旦に計画したが悪天で中止）
- 4、マナーの周知徹底の有効策は……こうした人たちは登山雑誌等は読まない……商業マスコミ・市町村の広報紙等の活用ができないものか。
- 5、現地での受け入れ対策（対応）については行政（関係市町村）に具体的要請を行っていく（行政は、実際にどうしたらよいかを把握していない）。
- 6、行政への要請のポイントは「道標・登山道が整備されていない。一部を除いては、地元山岳会のボランティアのみで維持されている。道標が一本も無い山域もあり、地図を持たない（持っているも読めない）登山者が急増していることから急務である。
- (2)各登山口に「登山マナーと注意」を書いた指導看板を立てる。
- (3)登山にあたっての駐車場・

- キャンプ場・トイレの整備も急がれる。
- (4)現地での登山届の提出先、指導（誘導）がない。また、現地問い合わせ先も不明（というより、ない）。早急な整備を。
- 7、登山指導員のありかたにも言及して
 - (1)指導を求められる指導員へ 登山の現況からみた指導員のあり方を考えてみると、かつての山岳会のリーダー的な要素から、地域において、一般登山者全般に対して指導助言する形態とその必要性が大きく求められている。
 - そうしたことから、指導員の標識一つを考えても、現在の上腕部に付ける小さなものではなく、自然保護指導員のような腕章のような目立つものにすれば、一般登山者のほうから指導を求められるし、指導もしやすくなるのではないかと思っています。
 - (2)一定地域を担当できる指導員へ
 - ・ 登りたい山域の登山情報を求めて関係機関に問い合わせてもほとんど役に立つ情報を得ることができない。

- 地図を読めない、季節による山の変化を知らない登山者に的確な情報を提供するために、一定の地域を担当できる指導員の確立ができないものかと考える。その分、指導員の負担も大きくなるが。
- (3)自然保護も兼ねた指導員へ 安全登山の指導にあわせて、マナーの指導も重要になってきている。かなりの指導員が自然保護指導員も兼ねてはいるが、これからは自然保護の要素も兼ねあわせた指導員のあり方が必要ではないかと思う。
- 登山口の看板例
 - 登山マナーと注意
 - 1、山では登り優先です。登ってくる人がいたら道をゆずりましょう。
 - 2、歩きの遅い人は後ろの人に道をゆずりましょう。
 - 3、つぎの行為は他の登山者に対して危険です。
 - ・ 休憩などで登山道を塞ぐ
 - ・ 悪路や雪道で立ち止まる
 - ・ 石などを投げたり落としたりする
 - 4、自然の保護にとめましょう。
 - ・ ゴミはすべて家まで持ち帰る

・植物・石などの採取・採掘
はしない

5、登山届を必ず提出し、万
一の時は下記に連絡を。

(〇〇警察署・電話××××)

2月3月に登れる山 物語山

長岡ハイキングクラブ

田 中 栄 弘

新潟県の山、いや日本中の山名の中でも、物語山程夢のある名前はない。メルヘン的であり、子供の頃を思い出させ、母親的な優しさ、父親的厳しさを感じさせ、故郷を思い出させてくれる様な名前である。物語山は、群馬県西上州の下仁田にある荒船山の隣に位置する1019mの山です。

私達平成6年2月19日に長岡より高速道で下仁田まで走り、温泉に泊まり、翌朝国道254号線を佐久方面に向かい、深山温泉の看板のある手前を左折し、市野萱川に架かる物語橋を渡り、凍った雪道の林道を進みました。ところが林道坂道でスリッパ残念ながらリタイヤして、道路脇の雪の中に駐車して登山を開始することにしました。正面

※この他に必要に応じてコースの注意をいれても良いのではないかと。
(遭難対策委員)

し数の中の踏み跡を下るとメ
ンベ岩の上部に出、そこは展
望が開けて素晴らしいの一言
につきまます。西峰の鞍部を通
り、青水の付いた木根への斜
面の急登を、慎重に足を上げ
て進めばなだらかになり、も
う直ぐ頂上になります。頂上
よりの展望は、妙義山、浅間
山、振り返れば荒船山に連な
る峰々が望遠できる。

帰りは往路を下り、下仁田
のコンニャク工場を見学し、
伊勢山の百庚申、霊山寺(七
福神、布袋)絹の歴史の博物
館を見学し、無事長岡に帰岡
する。

私達は冬に山行しましたが、
6月の山ツツジが咲き誇る時
季は、山登りの楽しさと花見
を満喫できることでしょう。

杉林の山道の霜柱を踏みしめ
ながらゆっくり急登する。休
みたいと思う頃小尾根に出て、
雑木の明るい斜面をトラバ
スして岩道に出る。この岩道
を歩くたびに、乾燥した平た
い小岩が摩擦して、カラン、
コロンと木琴の醸し出す音色
を聞くようで、一步一步メル
ヘンの気持ちになりながら、
空想にふけっているうちに西
峰に上がります。西峰より少
下山後、見学しないで直ぐ、

稲合山1370mを返す刀で
登るのも一案でしょう。

理事会報告

期日 平成6年12月25日
会場 新発田市五十公野公園
サテライトしばた
参加者 室賀輝男会長他9名
欠席委員18名

- 愛知国体の報告、選手解団式、北信越5県会議、福島国体他
- 福島国体に国体副委員長片桐一夫氏登壇審判員で参加
- 第50回国体県予選会、期日平成7年4月29日、30日、会場米山に決定
- ◎ 前半の事業報告と後半の事業計画
- ◎ 各委員会より前半の事業報告
- ◎ 後半事業について、B級指導員認定講習会3月19日新潟市において実施、婦人部3月下旬弥彦山、角田山、3月11日講習会、海外6月中旬、8月中旬にカムチャスカの山10日間の間、費用30万円、中国団結峰と訪中高校生登山隊は次回理事会で討議、中国青海省信越山荘落成式参加者県内7名、4月に出発、新山協ニュース新年度通算100号特別企画は、新年度より協会文書はおおいおいA版に移行する、中高年行事に参加者が期待しており責任感と体制の確立
- ◎ 新年会の担当者について
- ◎ 担当小林兼一郎氏の急逝によ

り新潟の鈴木敏雄参与にお願
いする、1月22日新潟市イタ
リア軒にて実施

- ◎ その他
- ◎ 小林兼一郎さんを偲ぶ会につ
いて、2月11日新潟市イタリ
ア軒にて実施、当日協会より
感謝状を遺族に贈る
- ◎ 日山協登攀用人工壁冊子の紹
介、クライミング委員会の設
置を今後討議する、高校生に
フリークライミング導入が近
いこの宣伝を強化する、新
規加盟団体の希望あり書類の
整備を満たし手続きに入る、
遭難対策会議県庁にて、遭難
時救援ヘリコプターへの連絡
信号の確立と宣伝の強化を計
る、他

〈文責 杉本〉

登山用品専門店

信頼できるパートナー

大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736